

# NEXCO東日本グループのSDGsへの貢献と取組み

NEXCO東日本グループは、国際社会共通の目標であるSDGsと当社の事業とを照合して、事業を通じて貢献できる目標を抽出しました。

当社グループは全事業を通じてSDGsの目標3「すべての人に健康と福祉」目標8「働きがいも経済成長も」目標9「産業と技術革新の基盤をつくろう」目標11「住み続けられるまちづくり」に貢献していきます。各事業を通じて貢献する目標は表のとおりです。

また、全ての事業活動においてあらゆるステークホルダーとのパートナーシップ（目標17）を大切にしています。

中期�営計画 5つの基本方針	重点計画	重要な目標	中期経営計画（2017～2020年度） における取組み
安全・安心・ 快適・便利な 高速道路サー ビスの提供	安全を最優先にお客さまが安心して利用できる高速道路サー ビスの提供	老朽化対策・高速 道路リニューアル プロジェクトの推進	高速道路リニューアルプロジェクトを推進し、橋 梁をはじめ必要な構造物の大規模更新・大規模修 繕の取組みを進めます。 健全な道路を確保し、快適に走行できる路面を提 供します。
		交通事故・渋滞の 削減	交通事故対策を実施し、死傷事故率の削減に取り 組みます。 付加車線事業などの渋滞対策を行い、渋滞による 利用者の損失時間の削減に取り組みます。
		雪氷対策など 気象条件への対応	雪に強い高速道路を構築し、冬期における通行止め 時間の削減に取り組みます。 首都圏の高速道路ネットワークと、地方部のミッ シングリンク解消に向けた整備を推進します。
		ネットワーク整備 と機能強化	4車線化の整備を推進し、安全性、快適性の向上 に取り組みます。 高速道路の機能の強化のため追加JCT・IC、ス マートIC、新規SA・PAの整備に取り組みます。
		社会課題解決への 貢献	高速道路事業と親和性の高い分野（地域社会の活 性化、交通安全の推進、環境保全）において、社会 課題の解決に向け取り組みます。
	地域社会への 貢献とインバ ウンド・環境 保全への対応	環境保全	地球環境保全、循環型社会形成、沿道環境の保全 の取組みを推進します。
		イノベーション	SMHを実現する技術開発として、点検の機械 化、損傷の定量化に取り組みます。 交通安全に寄与する技術開発として、暫定2車線 区間ににおける正面衝突などの重大事故の防止に取 り組みます。 雪氷対策の高度化のための技術開発として、除雪 車両への準天頂衛星の活用などに取り組みます。
		SA・PA事業など の収益力強化	SA・PAにおける商業施設を効率的に運営し、収 益力を強化します。また、新たな事業を創造し、 サービスの開発・拡張を行います。
		海外事業の展開	NEXCO東日本グループの保有する技術を海外に 展開します。
		CS (お客さま満足)	グループ一体となって、お客さまに安全・安心・ 快適・便利な道路空間を提供できるよう、走行快 適性の向上や休憩施設の充実を図り、お客さまの 満足度の向上を目指します。
社会に貢献する 技術開発の推進	安全を最優先とした業務の高度化・省力化につながる技術開 発（ICT、AI、IoT、ビッグデータなどの活用） ・SMHの実現、交通安全、雪氷対策の高度化のための技術開発 ・新たな車両技術の活用（自動運転技術の活用検討） ・NEXCO東日本 総合技術センターの整備・活用による技術 開発の推進	ガバナンス	内部統制システムの一層の強化・充実 ・内部統制システムの一層の強化・充実 ・人材の確保・育成と「やりがい」「満足感」を実感できる 環境づくりの推進 ・NEXCO東日本 総合技術センターの整備・活用による現場 対応力などの向上 ・E-Shokubaづくり運動（健康経営の推進）・女性活躍推進 ・業務の最適化・生産性向上の推進 ・企業ブランドの向上
		働き方改革の より一層の推進	社員がいきいきと仕事をし、「やりがい」や「満 足感」を実感できる環境づくりに取り組みます。
		CS (お客さま満足)	内部統制システムの一層の強化・充実、リスクマ ネジメントおよびグループ一体となったコンプラ イアンス体制の推進を図ります。

## 【グループ経営理念】

NEXCO東日本グループは、高速道路の効果を最大限発揮させることにより、  
地域社会の発展と暮らしの向上を支え、日本経済全体の活性化に貢献します。

事業に関連 するSDGs	個別に取組み するSDGs	関連 ページ
修繕着手済橋梁数 (集計後、当社HPにて公表) 平成26年度から当該年度の前年度までに判定区分Ⅲ、Ⅳと診断された 橋梁のうち、当該年度までに修繕（設計を含む）に着手した橋梁数 <sup>※1/2</sup>	引き続き、橋梁をはじめとする必要な構造 物の更新・修繕を行います。	27
快適走行路面率 (集計後、当社HPにて公表) 快適に走行できる舗装路面の車線延長比率	快適走行路面率（設定後、当社HPにて公表）	28
死傷事故率 (集計後、当社HPにて公表) 自動車走行車両1億台キロあたりの死傷事故件数（毎年値）	死傷事故率（設定後、当社HPにて公表） (毎年値)	29
本線渋滞損失時間 (集計後、当社HPにて公表) 渋滞が発生することによる利用者の年間渋滞損失時間（毎年値）	本線渋滞損失時間（設定後、当社HPにて公表） (毎年値)	31
通行止め時間 (集計後、当社HPにて公表) 雨、雪、事故、工事などによる年間の平均通行止め時間	通行止め時間（設定後、当社HPにて公表） 雨、雪、事故、工事などによる年間の平均通行止め時間	33 53
新規開通延長 24.4km	新規開通延長 9.8km	45
4車線化・付加車線の完成延長 15.8km (暫定2車線区間における付加車線事業のみ)	4車線化・付加車線の完成延長 40.3km (暫定2車線区間における付加車線事業のみ)	45
新規JCT・IC 3力所 新規スマートIC 3力所 新規SA・PA 1力所	新規JCT・IC 2力所 新規スマートIC 3力所 新規SA・PA 0力所	48
高速道路事業を活かしたCSR活動に取り組み、統合レポート およびCSR BOOKを発行し、当社グループの事業活動 とCSRについてわかりやすくお伝えしました。	高速道路事業にかかるCSR活動を活かしたCSR活動を推進し、ステー クホルダーにわかりやすく発信します。	71
CO <sub>2</sub> の削減にも資する後進地、東北中央道の整備を進め、 トンネル照明の省エネ化を図りました。 また、ecoインター <sup>®</sup> 、ecoエリア <sup>®</sup> を9力所整備し遅音 壁を約3km設置しました。	高速道路ネットワーク整備、渋滞対策、省エネタイ プの機器の導入、のり面樹林形成など、CO <sub>2</sub> 削減に による地球温暖化防止対策を推進し、廃棄物排出量の 削減およびリサイクルの推進、騒音対策など、沿道 の生活および自然環境の保全に取り組みます。	57 73
レーザースキャナーによる舗装の点検技術を現地に試行 導入しました。	道路構造物のモニタリングシステムの実構造 物での検証試験などの技術開発を進めます。	25 53
暫定2車線の長大橋・トンネル区間における正面衝突事 故防止対策の実車衝突実験を実施しました。	暫定2車線の長大橋・トンネル区間における正面衝突事 故防止対策の実車衝突実験を実施します。	30
AIを活用した作業判断支援システムや高精度気象予測シ ステムを現地に試行導入しました。	除雪車両の運転支援システムやAIを活用した 作業判断支援システムなどの技術開発を進めます。	33 53
SA・PAの年間店舗売上高（飲食・物販） 961億円	SA・PAの年間店舗売上高（飲食・物販） 971億円	19 37 41
インド道路事業を着実に実施するため、現地法人 [E-NEXCO INDIA PRIVATE LIMITED]を設立し営業 開始しました。	E-NEXCO INDIA PRIVATE LIMITEDと協 働しインドにおける技術支援業務を実施します。	59
日々寄せられるお客さまの声を維持管理業務に反映し、 安全快適性・走行信頼性・休憩施設のトイレ改修など、 お客さま満足度の向上を進めました。	快適な路面を保つための舗装補修、渋滞対 策、交通安全対策を進めます。	
取締役会などの審議効率化、監督機能強化などのため取 締役会規程を改定するなど統制環境の整備を図るとともに、内部統制に関する各委員会で審議などを通じて内 部統制システムの運用状況について確認を行いました。	改正した関係規程などの適切な運用を図るとともに、内部統制に関する動向や社会的な要請を 踏まえつつ、内部統制システムの構築・運用を図ります。	
改正労働基準法など（時間外労働の年間72時間の上限 規制、年休5日間取得義務化など）を遵守し、総実労働 時間の短縮に努めました。	改正した労働基準法など（時間外労働の年間72時間の上限 規制、年休5日間取得義務化など）を遵守する とともに、社員の健康保持・増進を支援し ています。	28 70 66 63

社会課題への貢献

持続的な企業価値の向上

※1 平成26年7月より施行されたトンネルなどの健全性の診断結果の分類に関する告示（平成26年国土交通省告示第426号）に基づき橋梁毎に総合的に健全性が診断された橋梁。

※2 修繕（設計を含む）に着手または完了したもの。